

「参加するまちづくり」を再考
参加するまちづくり
ワークショップがわかる本
伊藤雅春・大久手計画工房著 OM出版 2003年9月25日発行



ワークショップを実施するにあたって必要な知識とともに、新しい都市計画としての「まちづくりワークショップ」を参考する一冊。「参加するまちづくり」とは、まちで暮らす住民がビジョンを共有し、地域のことは地域で決めるというポリシーに従って行動することだと定義しています。また、ワークショップを実践する上では「情報共有」「体験共有」「意見表出」「創造表現」「意見集約」「変化の記録」という6つのコミュニケーション術が重要であるとし、詳細な事例をあげてこれらを分かりやすく解説。第4章の「まちづくりワークショップQ&A」では、「非建設的な意見ばかりが出た場合はどうすべきか」など現実的な問題にも言及しており、ワークショップ企画の基本を学びたい人におすすめです。

毎号、いろいろなメニューが楽しめる
「らしくCafé」。
コーヒーの代わりに生涯学習や
市民活動に役立つ本やHPなど、
いろんな情報をご用意して、
みなさまのご来店をお待ちしています。
さて、今回のご注文の品は…?
※ここで紹介している本は、まちづくり市民交流
プラザ3階図書閲覧コーナーでご覧になれます。

ワークショップのイロハを学ぶ
ワークショップ玉手箱
<http://www.community-design.jp/ishi/ws/>

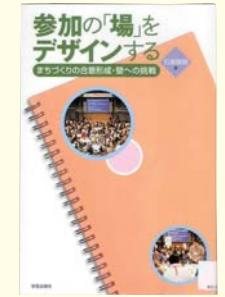


と題して解説しています。また、この覚え書きをより詳細に記した「ワークショップ玉手箱 スライド編」も掲載。図や写真が中心となっており、石塚計画デザイン事務所が持つワークショップ実践のノウハウが惜しみなく紹介されています。レジュメの作成方法としても参考にできる、理解しやすいスライドです。

BOOK

経験に基づいた豊富な知識が満載
**参加の「場」をデザインする
まちづくりの合意形成・壁への挑戦**
石塚雅明著 (株)学芸出版社 2004年11月30日発行

BOOK



小樽運河の保存運動からスタートし、30年近くまちづくりの第一線で活躍してきた石塚雅明氏による実用書です。自身がかかわったワークショップの事例を中心に、人々がいきいきとまちづくりに参加できる「場」の作り方について考察しています。優れた「場」とはどういったものであるのか、ひいては「場」をサポートしてくれる地域住民とのかかわり方など、具体例をもとに「まちづくりワークショップ」への示唆を教えてくれます。また、ファシリテーターやプランナーとしての体験談や現場における心得といった、ワークショップを企画するならぜひとも知っておきたい知識が満載です。



ワークショップをもっと楽しみたい人に
中野民夫ホームページ「民のクニ」
<http://truna.jp/>

HOME PAGE



デジタル技法を用いた都市計画や、まちづくりワークショップのサポートを手がける「(株)石塚計画デザイン事務所」ホームページ内のコラム。ワークショップを実施する上で知っておくべきポイントを、「私的ワークショップ覚え書き」

P SPOT

広島の会社が市民の
“エンジョイ”を応援してくれる、
おもしろスポットをピックアップ!

市民のやすらぎ空間

今回は、公開空地内の
ギャラリーや屋上緑化庭園など、
市民のやすらぎ空間を特集します。

株式会社大野石油店
白島稻荷パーク

戦後間もないころから、同社の敷地内に、京都府の伏見稻荷大社の分身を祭っていました。「白島稻荷パーク」として現在の形になったのは平成3年(1991年)。



株式会社大野石油店

広島市中区西白島町22-15

TEL082-221-9107



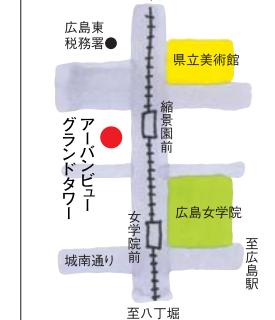
敷地一帯の再開発の一環として整備しました。施工した庭師が島根県の足立美術館をモデルに、池や庭石を配置したそ

うです。原爆投下から50年の節目を迎えた平成7年(1995年)、戦没者の供養と、地域住民の幸福と安全を祈願して、入り口そばに不動明王を祭った社堂を建立しました。開放時間は午前6時~午後4時。毎日のように、お参りする人もいるそうです。

公開空地内に「ギャラリーG」

昨年3月に竣工した、中四国・九州地方の高さ(166メートル)を誇るアーバンビューグランドタワー。建物周囲の公開空地内には、地域に貢献するための建物として「ギャラリーG」を建設しました。

学芸員や市民らでつくる実行委員会で運営しています。プロ・アマを問わず、二週間単位で展示スペースを貸し出しています。これまでには絵画展を中心でしたが、今後はどんな企画が生まれてくるのか、注目しましょう。



gallery G
広島市中区上八丁堀4-1 公開空地内
TEL082-211-3260

公開空地に 季節感あふれる散歩道

(株)中電工と中国企業(株)が共同所有する平和大通り電気ビルの公開空地には、バラのアーチや壁面を覆うツタなど、一年を通して季節を感じさせてくれる緑があふれ、ビルの利用者だけでなく、周辺住民の散歩道としても親しまれています。平成12年(2000年)度には、ひろしま街づくりデザイン賞(緑化部門)を受賞しました。



広島市中区小網町6-12

昨年3月に竣工した「グランドビル大手町」。エレベーターで最上階(13階)に上がると、一面芝生に覆われた庭園「ガーデンコロニー」が目の前に現れます。一般に開放されているので、暖かい季節になると、ベンチに腰掛けて弁当を広げる会社員の姿も見られます。庭園中央には、パリのルーブル美術館が公認する「ミロのヴィーナス」の複製が鎮座。まさに都会のアシスです。



グランドビル大手町
屋上庭園「ガーデンコロニー」

昨年3月に竣工した「グランドビル大手町」。エレベーターで最上階(13階)に上がると、一面芝生に覆われた庭園「ガーデンコロニー」が目の前に現れます。一般に開放されているので、暖かい季節になると、ベンチに腰掛けて弁当を広げる会社員の姿も見られます。庭園中央には、パリのルーブル美術館が公認する「ミロのヴィーナス」の複製が鎮座。まさに都会のアシスです。

「H」……それは“英知”すぐれた知恵であり、“叡智”深遠な道理をさとりうる優れた才知である。生涯学習のある暮らし、そんな広島の“H(えいち)”をお届けするコーナー。

エイチ・キャンパス



「まち探険クラブ」企画会議の風景

安東公民館……………安田女子大学

安東公民館では地域内にある安田女子大学、短期大学と、地域住民との交流に力を注いでいます。「大学の機能とそこで学ぶ学生は地域の資源である」ととらえ、地域住民と大学とが連携する事業を数多く企画してきました。

その一つが平成16年(2004年)からスタートした「まち探険クラブ」。安田女子大学のボランティアサークルを巻き込んだ「まちおこし」のプロジェクトです。子どもの日を通じた安東・毘沙門台の魅力を発掘しようと、地域住民と大学生が協働して企画・実施にあたります。昨年11月に行われた主催事業では安田女子短期大学保育学科の「歌唱的表現研究グループ」や大学弦楽部によるコンサートが行われるなど、そのほかにもさまざまな形での連携事業が企画されました。

保育科の授業に公民館の子育てグループが訪問し交流を図るという取り組みも行われています。机上の学習にとどまらず、地域と交流を図ることにより大学や学生にとってもメリットがあり、また地域住民にとっても大学や学生から学び得ることは大きいと言えるでしょう。



安田女子大学「歌唱的表現研究グループ」によるコンサート

新しい形の連携が広がる 公民館と高等教育機関とのかかわり方

**大学生を
地域の資源ととらえる**

早稲田公民館……………広島女学院大学

広島女学院大学と早稲田公民館が提携し、平成16年度(2004年度)からスタートした公開講座「早稲田アカデミー」。これまでに「タマちゃんの環境デザイン」「ライフストーリーを考えよう」など、一般の市民にも魅力的な講義が数多く行われました。きっかけは、「もっと気軽に勉強できる場を提供して欲しい」という早稲田地区女性会からの強い要望でした。そこで女性会のメンバーと公民館職員が、女学院大学のシラバス(大学で公開されている講座の内容を掲載した冊子)とともに、自分達が望んでいる講座を選定し、早稲田公民館での開催を依頼しました。こうして思いを込めて選んださまざまな分野の講座が、5月から11月にかけて、月に1回のペースで行われました。

参加者は積極的に受講し、どの講義も活気にあふれたものとなりました。講義を行った講師達からも、「日ごろの講義とは違う雰囲気が味わえ、新鮮な体験だった」という感想が聞かれました。女学院大学という高等教育機関がある早稲田地区ですが、お互いがきっかけを探っていた状態にあり、思ひのほか教育機関と地域社会とのかかわりは少なかつたこと。公民館・大学・地域住民のそれぞれが積極的に参加する事業「早稲田アカデミー」は、今までにない形の「地域活性化」として期待されています。



熱心に聞き入る受講生

地域住民の要望から 公開講座がスタート

広島女学院大学と早稲田公民館が提携し、平成16年度(2004年度)からスタートした公開講座「早稲田アカデミー」。こ

れまでに「タマちゃんの環境デザイン」「ライフストーリーを考えよう」など、一般の市民にも魅力的な講義が数多く行われました。きっかけは、「もっと気軽に勉強できる場を提供して欲しい」という早稲田地区女性会からの強い要望でした。そこで女性会のメンバーと公民館職員が、女学院大学のシラバス(大学で公開されている講座の内容を掲載した冊子)とともに、自分達が望んでいる講座を選定し、早稲田公民館での開催を依頼しました。こうして思いを込めて選んださまざまな分野の講座が、5月から11月にかけて、月に1回のペースで行われました。

参加者は積極的に受講し、どの講義も活気にあふれたものとなりました。講義を行った講師達からも、「日ごろの講義とは違う雰囲気が味わえ、新鮮な体験だった」という感想が聞かれました。女学院大学という高等教育機関がある早稲田地区ですが、お互いがきっかけを探っていた状態にあり、思ひのほか教育機関と地域社会とのかかわりは少なかつたこと。公民館・大学・地域住民のそれぞれが積極的に参加する事業「早稲田アカデミー」は、今までにない形の「地域活性化」として期待されています。

平成17年度 まちづくり市民交流プラザ生涯学習プログラム

講座案内

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
インテンシブ 英語		1期 募集		1期パソコン学習	2期 募集		3期募集 2期パソコン学習		3期パソコン学習			
シティ カレッジ		前期 募集		前期8講座	後期 募集		後期6講座			平成17 年度は14講 座を前期・後 期で開催。詳 しくはパンフ レットで		
大学 フェア		全国の大学 公開講座をプラザ 1Fロビーのテレビで 放送!平日午前10時 ~正午、土曜午後 1時~5時		社会人のための 大学活用フェア		社会人入学、科目等履 修などすぐに役立つ情報展示や 相談ブースが勢ぞろいします						
エル ネット				前年度人気番組リクエスト放送 (約100番組予定)		今年度新規に収録する最新講座放送 (約100番組予定)						
大学 公開講座												

※受講生の募集は広島市の広報誌「ひろしま市民と市政」などで随時お知らせします。

石内公民館……………広島修道大学……………広島文化短期大学 五月が丘公民館

NPOの協力を得て高齢者の可能性を広げる

高齢者の社会貢献の場を新しく設け、世代間の交流をより深めることを目的に、佐伯区の石内公民館と五月が丘公民館が共同して「夢まくら一座」を旗揚げしました。この一座は歌や簡単な楽器演奏を交えた群読劇を行う一座です。今年から週2回のベースで練習を行い、3月には地区内の高齢者施設などで発表しました。

朗読の指導にあたっているのは、今回のシナリオを作成したフリーアナウンサーの鈴木弘子さん。そして音楽面の指導にあたっているのが、広島文化短期大学の森川晴美教授と山崎弘子講師です。

この公民館と大学との連携をサポートしたのは、生涯学習を進める活動をしているNPO「ラーニングネットひろしま」です。夢まくら一座は高齢者と子どもを対象とした活動であるため、簡単で取り組みやすい音楽づくりを公民館側は希望していました。この意向を汲んで、「ラーニングネットひろしま」が音楽療法を得意とする広島文化短期大学の教授を推薦し、パイプ役を務めました。

また両公民館では、広島修道大学内に公民館だよりを置いてもらうなど、大学との情報交換を開始。高等教育に詳しい市民団体の協力を得たことで、効率のよい連携が行われていると言えます。

こうした市民団体が仲立ちとなる連携は、社会活動の新しいモデルケースとしてこれからも注目していくことでしょう。



楽しい雰囲気で練習がすすむ
「夢まくら一座」



的確なアドバイスで受講者の絵に加筆する山口さん



似顔絵グループ
「紀楽似画行会教室」主宰 山口紀行さん

やまぐちのりゆき
「紀楽似画行会教室」主宰 山口紀行さん

的確なアドバイスで受講者の絵に加筆する山口さん

似顔絵を通した社会貢献

山口さんの考える「似顔絵を描く

から似顔絵教室をスタートし、現在では30人近い受講者を指導しています。

山口さんの講義は、終始和やかで、似顔絵に魅力を感じるようになります。平成12年(2000年)から似顔絵教室をスタートし、現在では30人近い受講者を指導しています。

社会貢献を目指して似顔絵を描く

似顔絵の魅力を伝える

「紀楽似画行会教室」は、画家である山口紀行さんが主宰する似顔絵教室です。吉島公民館・大河公民館・利松公民館の市内3カ所で、それぞれ月に2~3回ずつ開催しています。もともとは日本画を志していたという山口さんですが、絵を描く際の集中力を養おうと学び始めたことがきっかけで、似顔絵に魅力を感じるようになります。

山口さんは、丁寧に似顔絵を描くのを教えると同時に、その絵を評価したり、アドバイスしたりします。また、似顔絵の技術を学ぶだけでなく、絵の表現力や色彩感覚などを鍛えます。山口さんは、絵を描く際の集中力を養おうと学び始めたことがきっかけで、似顔絵に魅力を感じるようになります。

山口さんは、丁寧に似顔絵を描くのを教えると同時に、その絵を評価したり、アドバイスしたりします。また、似顔絵の技術を学ぶだけでなく、絵の表現力や色彩感覚などを鍛えます。山口さんは、絵を描く際の集中力を養おうと学び始めたことがきっかけで、似顔絵に魅力を感じるようになります。

植物とのコミュニケーションを大切に

気軽に花を楽しもう

1月28日、まちづくり市民交流プラザにおいて、「花グリーン&お茶の時間でワクワク&リラックス!!の会」が開かれました。特別な道具を用いることなく、植物のアレンジメントを手軽に楽しもうと

いう講習会です。初めて花に触れる人でもアレンジメントの醍醐味が味わえると好評を得ています。

講師は、気さくな人柄が魅力の口

垣内桂子さんです。

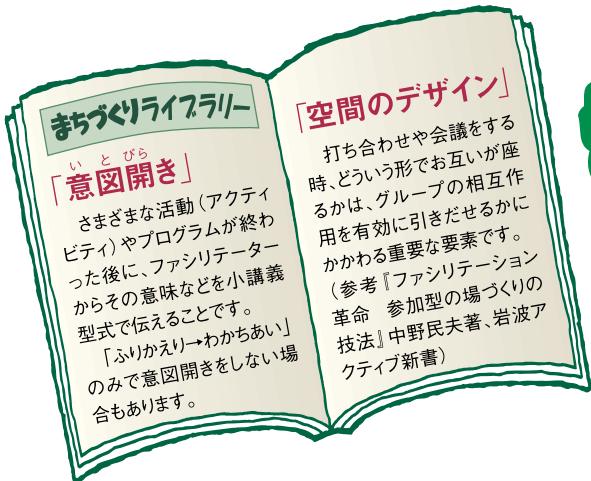
今回は剣山やオアシス(生け花用のスポンジ)を使わず、ハランの

が味わえると好評を得ています。

講師は、気さくな人柄が魅力の口

垣内桂子さんです。

今回は、「参加者の主体性を促す小ワザ」と「第二期生」の様子をご紹介いたします。



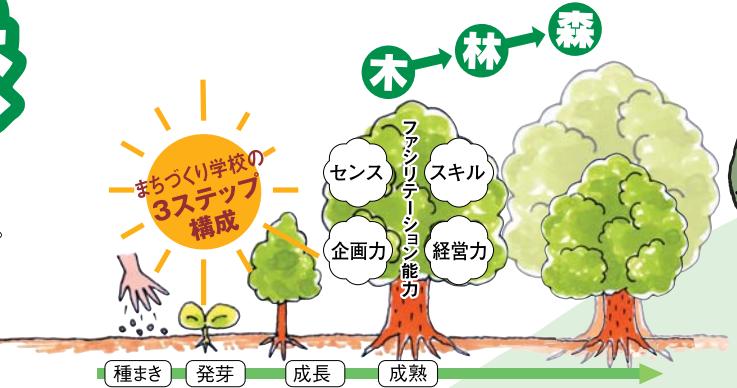
ひろしままちづくり学校

まちづくり活動に参加している人・参加したい人集まれ!

●まちづくり活動を進みたい人のためのファシリテーター育成セミナー●

さまざまなまちづくり活動の場面で役立つファシリテーション技術を、3カ年にわたり継続してステップアップしていく講座です。

- 1年目 学ぶ 基礎編
- 2年目 はぐくむ 熟練編
- 3年目 つくる 実践編



『子どもを育む環境』をテーマに自分にできることを書いてもらいました。
張り切れないほどの意見が出てきました。



ことができます。また、書いたことを発表してもうと時間管理もできるし、話が長くなることもなくなります。

ワークショップ 体験会を終えて

合意形成の難しさ＆楽しさの両方を実感していくために、「どうしたらよりよくなるか」を常に考えながら進行しました。帰り際の参加者の笑顔は、ファシリテーターへの何よりも嬉しいです。(かおり)

参加者やサポートーーからもらったフィードバックは、ファシリテーターをめざす私たちへの最高の贈り物になりました。運営したワークショップで鍛えられるのですね。(じじ)

「ワークショップ」で大切なこと、「参加者を分析する」です。短期間に知識、技術をマスターし、能力をつけるにも充実し勉強になりました。

そして何よりもじさんの屈しない熱き情熱に一番若かったWSでした。(もりっち)

かりました。ワークショップの成功は事前の調査がモノを言うのですね。



第3回では、1期生がグループファシリテーターを担当。グループ内で出た意見を分かりやすく、書きとめていきました。

き、熟練編へ進む意欲をもつて基礎編を修了しました。

今回は、第二期生が基礎編の運営やグループファシリテーター、まち学新聞の発行などの役割を担い、同じ志を持つ仲間のサポートをしていきました。その過程で、学びをより深めたり、人とのネットワークを広げることができたようです。



第1回では、スクール形式と分散型の2パターンつくり、場の設定の違いを体験しました。

ワークショップ(以下、WS)は参加・体験型の学びの場であり、参加者の相互作用による創造の場。今回は、月19日に「第一期生」の企画・運営した「ワークショップ体験会」の中から参加者の積極的な姿勢を促す時の小ワザを紹介します。

に引き出すかはプログラムデザイン(らしく10号参考)やファシリテーター(進行役)の促し方の工夫が大切になってきます。

まず、話し合いを始める前にグループ内で守りたいことをひとり一つずつ出してもらいます。それを書き出して、などが考えられます。また、ファシリテーターもルールづくりに参加し、出でない項目を提案することでルールを補足することができます。

ルールには、傾聴する、一人で長い時間話さない、全員が話す、批判しないなどがあります。また、ファシリテーターもルールづくりに参加し、出でない項目を提案することでルールを補足することができます。

1月19日から始まった第二期「基礎編」は、昨年同様ワークショップの必須条件「プログラム」「ファシリテーション」「空間のデザイン」を、体験を通して、各回のプログラムの組み立てのねらいやアクティビティ(活動)の意味を「意図開き」することで伝えていました。

第一期生 「基礎編」修了!